

子どもたち一人一人が輝くことのできる学校づくりのために



～特別支援教育の視点を踏まえた学校での取組～

新学習指導要領では小学校、中学校、高等学校のいずれにおいても一人一人の学びの困難に応じた指導内容及び指導方法の工夫が明記されるなど、特別支援教育は全ての学校、全ての学級で、組織的に取組を進めていくことが求められています。文部科学省でも平成29年度より「特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業」を実施し、全ての学校で特別支援教育の視点を踏まえた学校経営が進められるよう、具現化、周知を進めており、宮崎県でも幼稚園1園、小・中学校7校、高等学校1校の計9校が研究指定校として、研究に取り組みました。本リーフレットでは、各学校・園の取組の一部を紹介します。今後の各学校における特別支援教育の視点を踏まえた学校経営計画の策定や校内支援体制づくりの充実にご活用ください。



研究内容

【共通内容】

- ・特別支援教育の視点を踏まえた学校経営計画（学校経営方針）の見直し及び改善策の検討

【選択内容】

- ①合理的配慮の提供に係るプロセスの定着に着目した体制整備の在り方
- ②発達障がいの可能性のある児童生徒が関わるいじめや不登校等の生徒指導上の諸問題の未然防止に着目した体制整備の在り方
- ③特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的なアプローチの推進に着目した体制整備の在り方
- ④切れ目ない支援体制構築に向けた校種間における指導や支援に係る情報の確実な引継ぎに着目した体制整備の在り方

令和2年3月
宮崎県教育委員会

幼稚園での取組

《城山幼稚園》 研究内容：選択内容④

《研究テーマ》 園児一人ひとりの成長に応じた保育・保護者支援の在り方

《取組》

- ・視覚支援として絵カードやタイマー等を使ったりしながら活動内容や時間を提示し子どもが何をしたらよいかわかるようにした。

《成果》

- ・活動内容が明確にわかり、スムーズに活動に入ることが増えてきた。視覚支援は、対象園児のみならず、クラス全体にも効果があり、集中して「聴く」ことが、全体でもできるようになってきた。



絵カードを使って教員が話す様子

小学校での取組

《宮崎市立宮崎小学校》 研究内容：選択内容②

《研究テーマ》 特別支援教育の視点を踏まえた生徒指導の充実

《取組》

- ・職員研修会等において、スクールワイドPBSの考え方や本年度の計画等について説明・確認を行い、校長が、全校朝会で学校全体の具体的な目標（あいさつ・聴く・無言）について話した。
- ・取組については、各学級の温度差がなくなるよう推進委員会が取り組みや評価について毎週確認事項を提案し、意識づけを図る。褒め方、褒める場（期日や時間帯）を設定し、全職員で取り組んでいる。

《成果》

- ・職員が子どもを大切な存在として受け止めるとともに、子どものよさや可能性を捉え、そのことを認めたり褒めたりしながら高めていく必要があることを意識できるようになってきている。



校長が全校朝会で児童に話す様子

《都城市立明道小学校》 研究内容：選択内容①

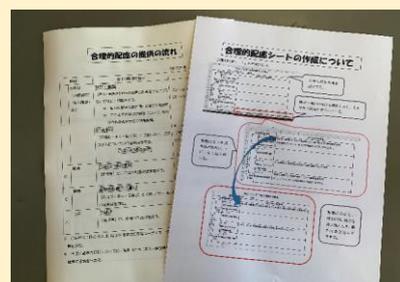
《研究テーマ》 合理的配慮の提供に係るプロセスの定着に着目した体制整備の在り方

《取組》

- ・特別支援学級担任と通常の学級担任が話し合う時間「学特会」を設定し、通常の学級での支援の在り方について情報交換に取り組んだ。
- ・合理的配慮の提供に係るプロセスの定着を図るために、合理的配慮作成シートを作成した。

《成果》

- ・担任同士が密に連絡を取り合うことで、特別支援学級の児童が交流学級で落ち着いて学習することができた。
- ・先生方が使いやすい合理的配慮作成シートを作成することができた。また、通常の学級担任が合理的配慮をはじめとする支援の方法を学ぶことにつながった。



合理的配慮作成シート

《小林市立小林小学校》 研究内容：選択内容②

《研究テーマ》 発達障がいのある児童が関わる生徒指導上の諸問題の未然防止に着目した体制整備の在り方

《取組》

- ・全職員ですべての児童に、指導の行動目標を「あいさつ」「廊下歩行」とし、学級ごとの取組として廊下歩行の指導「ろうかを静かに歩こう大作戦」や委員会活動と連携した「あいさつ運動」を実施した。いずれの取組も「あいさつをしたら、名札の裏に印をつけてもらえる」といった見える評価を導入した。

《成果》

- ・全職員が指導目標を明確にして取り組むことで学校全体に一貫した指導を行うことができ、落ち着いた学校環境づくりへとつながった。



「ろうかを静かに歩こう大作戦」の評価表

《日南市立飢肥小学校》 研究内容：選択内容①

《研究テーマ》 共生社会の実現に向け、小学校における特別支援教育はどうあればよいのか

《取組》

- ・どの児童にもある「良さ」を見出す意識をもち、それを認めほめ励ましながら伸ばす教育を推進し、職員の意識化を図っている。
- ・校務分掌に「特別支援教育部」を設置し、特別支援教育の視点に立った活動を推進している。

《成果》

- ・職員への周知が図られ、「良さ」をほめ励ます言葉が多くなったことで、以前に比べると落ち着いてきた児童が多くなった。
- ・特に通常の学級に在籍する個別の支援を要する児童への支援体制が充実してきた。



「よさ」を引き出す掲示物の例

《延岡市立延岡小学校》 研究内容：選択内容①

《研究テーマ》 特別支援教育の視点を踏まえた通常学級における支援の在り方

《取組》

- ・基礎的環境整備と合理的配慮（支援の手立て）
学級全体への配慮について検討（席の配置、黒板周りの環境、指示の出し方の配慮等）と合理的配慮の内容を具体的に考えた

《成果》

- ・通常の学級の担任の「基礎的環境整備」「合理的配慮」に関する意識が高まった。
- ・席の配置、声かけの仕方など授業改善、学級経営改善に役立てることができた。



机の配置の工夫例

《日向市立富高小学校》 研究内容：選択内容③

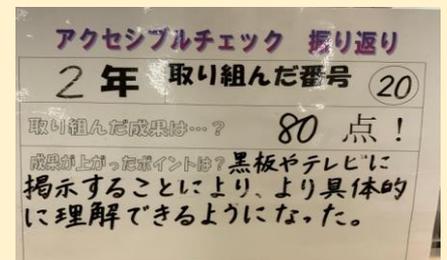
《研究テーマ》 特別支援教育の推進のための体制整備の在り方

《取組》

- ・通常の学級での「基礎的環境整備」について、教師が自分の授業を振り返るための「アクセシブル・デザインチェック表」を作成し活用した。
- ・空き教室を活用した「感覚統合ルーム」の設置

《成果》

- ・「アクセシブル・デザインチェック表」を活用したことは、支援を必要としている子どもだけではなく、どの子にとっても落ち着いた学習、分かる授業につながった。



アクセシブルチェック
振り返りカード

中学校での取組

《高鍋町立高鍋東中学校》 研究内容：選択内容①

《研究テーマ》 多様性を尊重し合う共生社会により良く生きる生徒の育成

《取組》

- ・学校経営方針に多様性の尊重や特別支援教育の視点を明確に位置づける。
- ・「分かる・できる」授業の構築に取り組む。

《成果》

- ・学校経営方針に「インクルーシブ教育システム」の考え方を取り入れ、「多様性を尊重し合う共生社会」をつくる生徒の育成を目指し、学級経営や学校行事等、学校教育全体を通して校内支援体制の構築が図られた。
- ・全職員が研究授業を実践し、授業力向上が図られ、計画→実践→評価・見直しを実施し、教科の専門性を高めることができ、「分かる・できる」授業の実践につなげることができた。

ダンス記録カード		HR		番 名 前	
前集1	（恥ずかしがらずに笑って）	前集2	（思いきり身体を動かそう）	前集3	（友達の実現を認め合おう）
（4：パッチリ 3：だいたいOK 2：少し不十分 1：全然ダメ）					
月	自分たちで気づけた 動きやイメージ	初	中	後	今日の感想
日	（文章でも絵でもOK）	1	2	3	先生から一言
【いやと思えた日】					

互いの良さを認め合う視点が入っている学習カード

高等学校での取組

《県立日向工業高等学校》研究内容：選択内容④

《研究テーマ》通級指導をととした「社会に繋ぐ」体制の構築

《取組》

- ・アクセシブルデザイン「日エスタンダード」の実践と全職員による評価の実施
- ・生徒、保護者からの困りアンケート、生徒がどんなことで、どの程度困っているかを測定する「学校環境適応感尺度」アンケート等の実施

《成果》

- ・多くの職員が特性に関する理解を深め、観察力の向上ができた。
- ・中学から高校への「繋ぎ」の支援体制ができた。



「日エスタンダード」による授業の様子

スクールワイドPBS

学校全体で取り組むポジティブな行動支援
SWPBS (School-wide Positive Behavior Support)

スクールワイドPBSとは

スクールワイドPBSは、児童生徒が示す問題行動に対し、それを罰するのではなく、「望ましい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体で全ての児童生徒を対象に取り組む組織的アプローチです。

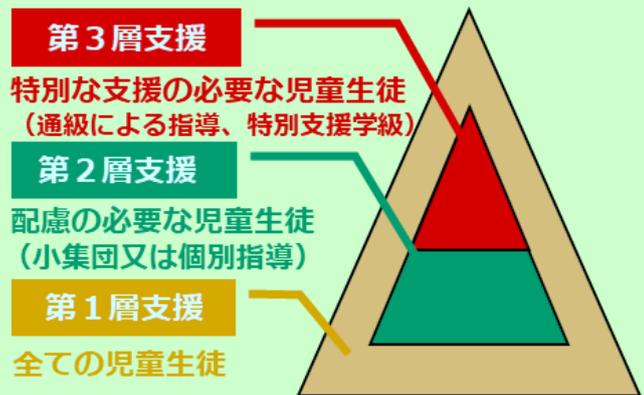
スクールワイドPBSの効果

発達障がいのある児童生徒は、禁止形での声掛けにより感情的になったり、パニックになったりすることがあります。禁止ではなく肯定的な声掛けにより、発達障がいのある児童生徒にとっても受け入れやすい指導となり、自発的な行動につながりやすくなります。その結果、暴言暴力や登校渋り等の二次的な問題が生じにくくなり、個別の配慮や特別な支援が本当に必要な児童生徒を明確にすることが可能となることから、よりの確な指導や支援を行うことができます。

「スクールワイドPBS」は、科学的根拠に基づいた行動支援の方略としてアメリカで開発されました。全米の学校で取り組まれるだけでなく、カナダやノルウェー、オーストラリアなどにも広がり、成果が報告されています。

行動目標の設定例 (めざす児童生徒像を場面ごとに具体化)

	礼儀正しく思いやりのある子ども
授業中	先生や友達に対して丁寧な言葉遣いをする
清掃時間	自分の担当が早く終わったときに友達を手伝う
教室移動	廊下の右側を静かに歩き他の歩行者を気遣う



スクールワイドPBSを先行的に導入した学校で見られた成果

- ・長期休業中の生徒の問題行動が大幅に減少した
- ・低下傾向にあった学力が向上に転じた
- ・生徒が授業に主体的に取り組む場面が増えた
- ・教員の意識が変わった



令和元年度は、高鍋農業高校、宮崎小学校、飫肥小学校、小林小学校で試行されました。

◎特別支援教育では、スクールワイドPBSを導入する学校を積極的に支援します。